

第8回 阿波おどり実行委員会会議 議事録

開催日時 平成30年10月24日(水) 午前10時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員7名(内代理1名、欠席1名) 事務局9名

- 1 開会
- 2 代理出席者及び欠席者紹介
- 3 市長挨拶
- 4 議題(1) 阿波おどり事業の決算見込みについて

【事務局】

資料1 阿波おどり事業の決算見込みについて説明

【委員長】

大変残念ながら、大幅な赤字となる見込みである。去年に比べてチケットの売上が3000万円程下がっている。

【A委員】

チケットには前売り、当日販売等あったと思うが、前売りで何割減などの検証はできているのか。

旅行会社は事前にチケット購入することが大前提としてあり、真の要因を探求、追究するにはその辺りも必要であると思う。

【事務局】

当日券の販売状況については手元に資料がないが、6月初旬から7月1日の一般販売までの間に旅行代理店向けに販売したチケットがある。この部分の売上が昨年度と比較で560万円程減少しており、全体的にチケット収入も3000万円程度減少しているが、7月1日までの旅行代理店向けチケット販売についてもかなり落ち込みがあったと考えている。

【委員長】

意見を発言しにくいような状況になっているかと思うが、森住委員どう思うか。赤字が確定ではないが、大きな赤字になる見込みという発表があったが。

【B委員】

全国的なイメージダウンの中で止むを得ない気はする。

【委員長】

チケットの販売が落ち込むことは想定できたと。

【B 委員】

その分来年度に頑張っていたかかないとしようがないと思う。

【C 委員】

旅行会社向けの部分が560万円落ち込んだのは、やはり風評に邪魔された。開催できるかわからないと言っていたと思うが、その面はどうなのか。販売したところの見方としてA委員は分かると思うが。

【A 委員】

実際あったと聞いている。マイナスの伝わり方のほうが強く、総おどり中止が阿波おどり中止という様な形で、購入する一般の客が今夏阿波おどりはないという前提に立っていたのは少なからずあったと思う。

しかし、総おどりだけが問題ではないと思う。総おどりが中止になった時も問い合わせがあったが、それは肅々と受け止めて代わりにフィナーレが開催されると答えていた。そのことについては払拭をしたつもりではあった。

【C 委員】

週刊誌のセンセーショナルな見出しがかなり影響した。

【D 委員】

全体の収支の説明があったが、最終日の天候が非常に悪い中での開催になったので、日にちごとの演舞場のチケットの売上具合、風評被害だけの問題なのか、天候によるマイナス面がどれくらいあったのかも検証しておくべきだと思う。15日は相当悪かったと思うが、例年と比べてどれくらい差があったのか。

【事務局】

日別の売上は手元に資料がないが、チケット販売率は15日の特に2部については、販売率が38%、昨年度は5.6%程であった。1部でも今年が51%、昨年は68%あったので、15日は天候の影響もあったと思うが、全体的にかなり売上が落ちている。

チケット販売収入が減少した要因の補足について、曜日配列が良くなかった、近隣の県で大きな被害をもたらした西日本豪雨の影響、連日猛暑日を記録した異常気象の影響、最終日の雨、さらには阿波おどりに関するネガティブな情報辺りが総じてチケット収入が大きく減少したのではないかと分析をしているところである。

【E 委員】

今のところで意見と質問が1点ずつある。意見として、数年前に天候が悪くなり中止をした時があったと思うが、その時と比較した方がいいのではないか。悪天候時は何%ぐらい下がるのか、もしかすると今年の15日の落ち込んでいるのが天候である程度仕方ないというのが想定できると思うので、そこを調べていただきたい。

質問として、支出が700万円増になっているが、縮小するために取り組んだにも関

ならず、結果として支出が増えたのか。この要因と考えられる警備業務の人数、単価の詳細を教えてください。

【事務局】

経費の詳細については、今年から新たに5つの学校や公園の臨時駐車場の運営を事務局の方で運営しており、これにかかる経費が主に警備業務である。この辺りが800万円程支出しているため全体的な経費増の要因としてはこれが大きいと考えている。

【委員長】

何名の委員からも意見が出たが、いろいろな面でもっと詳しい情報が必要であるとのことで、事務局として対応いただきたい。

【事務局】

決算の見込みが出たばかりである。今後の有識者会議の方で、しっかりと分析いただき、今後の対応等に繋げていきたいと考えている。

【委員長】

来年には、ほぼ決算が固まるのか。

【事務局】

年明けには、ほぼ固まる見込みである。

【委員長】

最終の決算は来年度に入ってからになるのか。

【事務局】

実行委員会は税の申告がある。最終的には税の申告を行い税額が決まり、年明けには固まる見込みで考えている。

【委員長】

最終の決算については確定した段階で各委員に報告をさせていただく。

議題（2）阿波おどり振興協会の対応について

【事務局】

資料2 2019年度阿波おどりの開催に向けてについて説明

【C委員】

阿波おどり振興協会（以下「振興協会」という。）から実行委員長である市長に協議をしたいという申し入れがあったようだが、それは実行委員長に対してなのか、市長に対してなのか。

【委員長】

今まで、一度も正式に振興協会から協議の要請は受けていない。

【C委員】

今回も要請は来てないのか。

【委員長】

全てマスコミを通じて伝わっている。例えば新聞や記者の口から伝わっており、振興協会から直接要請を受けていない。今年度の初めの頃から、例えば総おどりについてもやりたいという申し入れもない。全て振興協会が記者会見で公表した内容を聞いている状況である。今回も会談をしたいということは振興協会から申し入れを受けた訳ではなく、新聞や記者からの情報で知ったということである。

【C 委員】

正式に受け止める必要はないということか。

【委員長】

正式に申し入れを受けたわけではない。

報道などによると、私と話がしたいという風には伝わっているが、この点についてはどう思うか。

【C 委員】

それは市長としてなのか、実行委員長としてなのか。実行委員長としてであれば、この場に話を持ちかけていただければいいと思う。市長に対してということであれば、市長自身の判断になると思う。踊りの運営に関しての話であれば、振興協会に限らず、徳島県阿波踊り協会（以下、「県協会」という。）、全てのところに同じような話をする必要があると思う。

【委員長】

当然実行委員会の立場としてということである。

【D 委員】

議題 2 振興協会の対応について、これまでの対応に何か問題があったという議論をするのか、それとも今後の対応について議論するのか、整理していただきたい。

【事務局】

9月28日に事務局から振興協会に通知をさせていただいたように、今回ネガティブな報道があったが、そのことを踏まえて来年の阿波おどりを円滑、正常に開催するのが実行委員会の役目だと考えている。そういった点で振興協会に対して今後どうアクションしてくのかを議論いただきたいと考えている。

【C 委員】

事業主体であった観光協会自体の問題を指摘して、全てのことが始まっている。今年市が率先して実行委員会事務局を設けてやらざるをえなかったと思うが、いつまでも市が続けられないと思う。徳島市としても他の行政もあり、阿波おどりの興行に関しての実務をいつまでもやるのはどうかと思う。そうすると近い将来、観光協会の問題が解決すれば、事業主体になる組織を作る必要があるのではないか。それに向けて、特に来年どうするかの問題も当然あると思う。

【委員長】

阿波おどり実行委員会の事務局は現在、徳島市の職員が担当しているが、興行的なこ

とも含め、別の組織で運営した方がいいという意見である。

【C 委員】

事業主体である観光協会に様々な問題ありということで、このような結果になったと思うが、そうならない組織を作る必要があると思う。余談になりますが、利害関係者である踊り関係者は組織には入らない方がいい。

【D 委員】

C 委員の意見はその他で議論する内容であると思う。振興協会に対しては、今年の反省も踏まえてしっかりコミュニケーションを取りながら阿波おどりの発展のために協力いただける体制を作っていかなければならないと思う。話が来るのを待つだけでなく、積極的に協力を求めていくような案を実行委員会で練って、振興協会に投げかけていくのがいいと思う。向こうからの申し入れを待っているだけでは時間もかかる。

【B 委員】

振興協会も実行委員会から話が来るのを待っているのではないか。

【D 委員】

そうかもしれない。そのため早急に次年度はこのような方式でやりたい、ぜひ協力していただきたいという案を作成してくのはどうか。

【B 委員】

振興協会もこれからの対策をいろいろ考えていると思うが、実行委員会からの接触を待っていると思う。振興協会は新聞紙面等、あちらこちらで非常にアピールをしている。存在感を非常に高めているということはそれなりに協議を行う気があるのではないかと思う。

【E 委員】

話し合いはするべきであるが、その話し合いの中でどのような話ができるかはある。今年起こったことを検証することは大事であるが、建設的に協力して、阿波おどりを良くしていくことを前提に話し合っていかなければならない。

【F 委員】

各委員と同じ意見である。

【A 委員】

仮に決算が赤字でなければ、総おどりは必要なかったという話になっていたかかもしれないが、今回現場を見ていると総おどりを期待する声が多数あったのも事実である。実行委員会でも何度か発言したが、実行委員長名で「貴協会と十分協議を行っていただかなければならないと考えている」と記載した通知を振興協会の会長に手渡して意思表示をしている。既に旅行商品造りは始まっており、来年度、総おどりがあがるかいかで、商品のタイトルも変わってくるということの一部の旅行業者から言われており、早急に来夏に向けた話し合いを是非していただきたいと考えている。

【委員長】

総おどりに関して、今年全国のマスコミですごくPRしてもらった。すごいPRだったと思うが、未だに阿波おどりテレビ番組等で流れている映像は総おどりだったりする。阿波おどり事業について、有識者会議で検証していただいた上で、来年の阿波おどりに向けて振興協会と十分に協議を行っていくということによろしいか。

【C 委員】

今後の阿波おどりの進め方について、阿波おどり団体は複数ある。振興協会と県協会と徳島県阿波おどり保存協会、それらの団体だけを対象にして決めていいのか。今年は色々あったため、個別の連に直接に連絡をして進めていくというやり方であった。今後、団体ごとでもいいと思うが、各連との連絡が大事になってくるので、やり方を変えていく必要がある。全てを団体だけに頼ると様々な問題が出てくると思う。

【委員長】

確かに阿波おどり連はたくさんある。協会に所属してない阿波おどり連もたくさんあり、今回のことで有名連以外の連にもスポットを当ててほしいという意見を多数持っている。一部の連だけでなく、阿波おどりを支えている連はたくさんあり、その連にも目を向けてほしいという要望はたくさんあった。

【C 委員】

例えば、今年、振興協会が前夜祭に出られなかったと発言していたが、団体と契約をする内容になっていたから出られなかったのではないか。有名連の各連と個別に契約することは可能であったと思う。前夜祭の出演については、団体との契約の慣例があったため十分な協議ができていなかった。それは改善した方がいいと思う。

【委員長】

団体よりも個別の連を優先して話を進めるということか。

【C 委員】

団体の方から締め付けがあるのではないか。

【D 委員】

前夜祭については、一つの舞台を複数の連でグループを構成するため、各連がいくらやりたいと言っても、それを一つのものに作り上げるためには、統制が必要である。そのために協会に依頼している。選抜阿波おどりは、各連が10分ずつの持ち時間であり、連単位で参加を決めても問題は無い。ただ、前夜祭だけは、一つのグループで作り上げていくものなので、連ごとにバラバラで出すのは難しいと思う。

【委員長】

前夜祭は団体の踊りであり、各協会が必要ということか。

【事務局】

演出方法等についても有識者会議で議論いただくようになっており、その内容等を踏まえて実行委員会で報告させていただく方向で対応させていただきたい。

6 議題（3）阿波おどり運営協議会の議論について

【事務局】

資料3 阿波おどり運営協議会議事概要について説明

【E委員】

運営協議会の指揮系統がはっきりしていたのか。運営協議会だけでなく、今回の運営自体指揮系統がはっきりしていたのか。それを、実行委員会として把握することができていないことは問題である。

運営協議会という名前で阿波おどりを実施する組織だったのか、ただ意見をもらうだけの組織というところが問題だったと思う。本来のイメージであれば、実行委員会が決定権はあるが、実施ベースで動いていくのは運営協議会であると、当初から認識しており、広報や演出、警備などを分けた枠組みがあり、そこに向けて話を進めていくものであったと思う。そもそもの組織作りから、もう一度やり直さなければならないのではないか。

【D委員】

運営協議会会則には、運営協議会は実行委員会の諮問機関として意見を述べることを明確に記載されている。かなり大人数が参加しており、様々な意見を出していただき、実行委員会への意見をまとめていく。それを実行委員会が精査して実際の運営にプラスになるように参考にしていくというのが運営協議会である。

【E委員】

そもそもその体制がおかしかったのではないか。

【D委員】

運営協議会の会則を、運営に関して実行していくように変えるということか。

【E委員】

会則で確認すると、どちらかと言うと運営協議会が第三者委員会に近い感覚である。運営協議会の立ち位置を考えた方がいいのではないか。

【B委員】

元々は阿波おどりの運営を行っていた組織ではある。

【事務局】

運営協議会は諮問機関である。幅広く各界からの意見を頂戴し、その意見を実行委員会に諮り、事業を進めていく。実際、どのように運営をやっていくのかを含めて、有識者会議で協議していただくことになる。そういったところで議論いただき、次回の阿波おどりに向けて、どのような体制で運営していくのかを検討していくことになる。E委員からの意見についても有識者会議に報告させていただく。

7 議題（4）阿波おどり事業有識者会議の設置について

【事務局】

資料4 阿波おどり事業有識者会議の設置について説明

【D 委員】

高円寺の阿波おどり、よさこい祭りやねぶた祭りがあるが、各イベントの予算規模がなければスケール感がわからない。

【事務局】

予算規模については、資料4の表8にあるが、公表してないところもある。青森のねぶた祭りは事業規模が2億円になり阿波おどりと似ていると考えられる。

【C 委員】

今年の阿波おどりでは、徳島新聞社から当日のスタッフを出していると思うが、その経費の金額を出すことはできるのか。

【D 委員】

出そうと思えば出せるが、集計はしていない。1日10人の4カ所で、おそらく150～200人の規模で出している。それを計算すれば、人件費は算出できると思う。

【C 委員】

徳島市と徳島新聞社が二人三脚のような形でやられていたので、当然その金額も出すべきではないか。

【D 委員】

そうすると、市の職員の人件費の大半は今回の決算には含まれていないと思う。それを入れると、もっとすごい赤字になる。

どこが運営をするにしても人件費等も明らかにする必要がある。

徳島市も新聞社も一切関わらずに阿波おどりを行った時に何人ぐらい運営に必要なのか、いくらぐらい人件費が必要であるのか、この程度の予算が必要であるということを経後のために調べておくべきである。

【委員長】

決算に出ていない費用であるが、確かに運営主体が変わるとすれば、そういった資料は間違いなく必要である。

【事務局】

有識者会議の委員からは、他の祭りの状況をしっかりと分析して、来るべき阿波おどりにどう提言していくか、非常に力を入れていただいている。資料で示させていただいているが、有識者会議で細かいところまで分析していただき、阿波おどりはどうあるべきかという提言等を行っていただくよう進めていただいている。

【D 委員】

有識者会議の具体的な結論を出す日程はいつになるのか。有識者会議で出した意見をどうするのか。提言を参考にして来年度の計画はどこで決定するのかということを確認しておかなければ、また遅れてしまう。できるだけ早く決定をしなければならない。

【委員長】

年内には提言書を提出していただくことになっており、それを受けて実行委員会で協議を行うことになる。

【D 委員】

最終的に来年度の阿波おどりを開催するということを決定する時期はいつになると考えているのか。

【事務局】

スケジュール感について、12月中には有識者会からの提言をいただきたいと考えている。A 委員からも意見があったが、旅行の商品造成は始まっているところであり、できる限り早く進めたいと考えている。できれば年内には実行委員会をもう一度開催し、有識者会議の提言内容を踏まえてどうしていくのか。おそらく提言の中に来年度の体制はどのようにした方がいいのかということも有識者会議から出てくる。そういったことを踏まえて、今年の年内にもう一度実行委員会を開催し、議論ができればと考えている。

来年度の阿波おどりについては、1～2月にかけて事業計画の原案を作成して、今年4月26日に開催した第1回の会議で事業計画の概要を出させていただいたが、その事業計画を2月頃には実行委員会で諮りたいと考えている。

【D 委員】

そのスケジュール感では甘すぎると思う。例えば振興協会の総おどりの対応については、実行委員会で決めれることだと思う。来年は間違いなく開催する、今年発生した問題は解決したという発信を年内にしておかなければならない。詳細については2月でいいと思うが、大きな問題については早めに切り離して検討できるところは検討した方がいいと思う。そうしなければ間に合わない。

【委員長】

一番急いでいるのはA 委員だと思うが、業界としてはもう動いているという話があるがどうか。

【A 委員】

宿泊などは市内のホテルの関係者に聞いても、エージェントから問い合わせがあり、料金回答が始まっている。何よりお盆は飛行機の席の取りづらい時期でもある。JR やバスもそうである。旅行会社としては当然仕入れや仕込みは始まっている。パンフレット作りも同じスピード感で進んでおり、来年度は総おどりがいいのか、通常通りの阿波おどりなのか、それとも総おどりに代わるものがあるのか、といった問い合わせが実際に来始めている。実行委員会自体が一旦解散をして違う担い手がやるかもしれないということがあるかもしれないが、進めることは肅々と進めておかなければ、今年と同じことになる。下手をすればもっとひどいことになるかもしれない。その危機感をここにいる委員は少なからず共有し、真摯にこの数字の実態を受け止め、やらなければならない。そのため、自分も業界の代表としてやれることはもちろんやっていくつもりであり、

事務局に負担はかけるかもしれないが、進めていけることは肅々と進めていただきたい。もし次年度違う担い手になったとしても、引き継げばいいだけの話である。この同じ状況を繰り返してはいけないという思いである。

【委員長】

必要な情報というのは、一つは阿波おどりを実施するというのは決まっているわけである。あとはやはり総おどりに関してなのか。

【A 委員】

総おどりのこともあるが、栈敷についても市役所前をどうするのかも以前の実行委員会で意見がでたと思う。話し合うことはいくつもある。実行委員会で、たちまち話し合わなければならない内容を詰めるべきではないか。

【委員長】

詳細については、2月でも構わないが、先に発信しなければならない情報については、年内に発信すべきということか。

【A 委員】

絶対年内に発信すべきである。今日の実行委員会でそのような議題が出て多数決で決定すると思って参加していた。それぐらいのスピード感を持ってやっていただきたい。

【事務局】

事業計画の原案について、1～2月頃と説明をしたが、大筋については確かに急ぐ必要があると思う。有識者会議で栈敷の運営、演出方法、チケット販売等について、まとめた上で、年内早めに提言をいただきたいと考えている。

提言いただければ、それをもって年内にも実行委員会で大筋の方向を決めてもらうことは可能ではないかと考えている。

【委員長】

年内では遅いという意見が出ているが。

【D 委員】

有識者会議の意見と、実行委員会の主体性は別だと思う。実行委員会は責任を持って主催者としてやってきたわけであり、実行委員会がどういう風な話し合いをしていくのか、有識者会議と平行して進めていかなければいけない。提言を待ってそれから検討するのでは遅くなる。いくつか検討しなければならないことがあるということであっても、実行委員会で検討しておかなければ、有識者会議の提言が非常にかげ離れたものになった場合、そこから検討するのは悠長すぎる。

【委員長】

早急に発信しなければならない情報を、リストアップする必要がある。

【事務局】

有識者会議の議論というのは公平・公正に新しい観点で、全国のいろいろなイベント

の資料を見て、今後より良い未来志向の阿波おどりのあり方を研究していただき、提案いただくということが非常に重要であると認識しつつ、来年の阿波おどりをどうやっていくのかといったジレンマがある。今日の意見を有識者会議に伝えて、できる限り実行委員会の意見を踏まえた形で運営ができるように取り組みたいと考えている。

一方では C 委員の意見のように運営主体のあり方とかも含めて議論しなければならないところもあり、そういったことも平行してやらなければならないため、一定の理解をいただきたい。

【委員長】

そのことは各委員十分にわかっているが、旅行業界では情報が一刻も早くほしい。来年度の阿波おどりの大筋の部分についての情報がほしいと、これは切実な問題だと思うので、実行委員会としてはそれには応えなければならないと思う。

例えばどのような情報が必要か、開催日は確定しているが、枚敷が今年と同じなのかなどになるのか。

【A 委員】

チケット販売にしても今年は情報発信が遅かったが、来年も今年と同じやり方なのか。旅行会社枠で 40 名以上の受け付けを行っていたが、旅行業界では人口減少の影響もあり、バス 1 台 40 名が埋まるといのはなかなか厳しくなっていてきており、30 名からでも受け付けてもらえるようにならないのか等の問い合わせもいただいている。そういったところも例年通りでいいのか、意見を伝えて、各委員から意見をいただき、40 名以上でなければおかしいとなれば、今年通りにすればいいと思う。チケット販売の時期、購入枚数、単価の見直しが必要なのか、枚敷席は例年どおりやるのか、市役所前はどうか考えるのか、有識者会議でもそのあたりの意見は出るであろうが、平行して我々実行委員としての意見も持ちつつ有識者の意見も参考にしながら年内には結論が出ているという段階にもっていければベスト。それから南内町の赤字も出ていたが、これは総おどりが起因するものなのか、であれば振興協会と早急に話し合いをもっていくなど、早急に詰める必要があるのではないかと。

【委員長】

スケジュール感について、思っていたよりもっと早くする必要がある。県外客を呼んでいただくには、旅行業界の力はかなり大きいと思うので、その旅行業界が求める情報というのは一刻も早く出さなければならない。

【A 委員】

旅行会社だけの問題ではなくて、市内の宿泊関係者からも早く県外客が固まって決まれば、その後の周辺の地域の方々への部屋の配分などをしやすいといった意見もいただいている。ただ一方で事務局が決めたスケジュール感でいい部分もあると思うので、そこを区分けして早急に決めるべきところは決めて、話し合っていくべきと思う。

【委員長】

旅行業界としては、お客様を集めるのに必要な情報というのは全体のスケジュール以外にもっと早く結論を出さなければならない。

2月では間に合わないということで、有識者会議で色々と検討していただいているが、それと平行して実行委員会として結論を出して発信をしていかなければならないということである。必要な情報の項目は急にまとまらないと思うが、事前に各委員から話を聞いて、早くしなければいけない項目をまとめて、次回に実行委員会で話し合うということによろしいか。

【D 委員】

12月まで待つのは遅いので、実行委員会は有識者会議からの結論が出る前に2回でも3回でも開けるだけ開いて議論しておくべきだと思う。有識者会議の結論にどこまで実行委員会が従うのか、参考に取り入れるのか、あくまでも主体はどこなのかをもっと明確にしていきたい。

【委員長】

有識者会議の意見を参考に実行委員会で決定をする。

【D 委員】

そうであれば、余計に実行委員会が議論を重ねなければ有識者会議の提言そのものを判断できない。

【委員長】

有識者会議に決めていただくのではなく、有識者会議からいろんな角度からの意見をいただいて、決めるのは実行委員会である。

【D 委員】

実行委員会も相当な準備をしておかなければ、提言自体がよくわからないと思う。

A 委員から懸念を示していただいたが、旅行会社に対する情報で急ぐ項目について整理して、早急に実行委員会を開いて検討するということで、事務局はどうか。

【事務局】

必要項目について、事務局の方から各委員に照会させていただき、できる限り早期に会議の日程調整をさせていただきたい。

【委員長】

事務局の方から各委員に連絡し、何をまず決めなければいけないのか、項目をあげた上で、できるだけ早く次回の実行委員会を開催するということによろしいか。有識者会議はしっかりと議論いただいており、有識者会議の意見も参考にしながら決断をしていきたいと思う。

有識者会議に対して新たな資料を提供する場合は、随時事務局より各委員に報告をさせていただく。

その他に意見、質問はないか。先程、C 委員から運営体制について、指摘をいただいていたが、その点について意見はあるか。

【C 委員】

今の状況からすると、このまま徳島市に事務局をおいて来年に突入していくということになるのか。

【委員長】

そうである。

【D 委員】

運営体制は、有識者会議に弁護士等が入っており、自治体の関わり方や法的にどのようなかということ冷静に判断していただき、このような方式でやってはどうかなど提言を受けて検討していく内容だと思う。ここで市長に引き続きやってくださいと言っても、どういったところに問題がわからないため、公平な第三者の意見が必要だと思う。

【C 委員】

行政としての制約があると思う。

【委員長】

先ほど指摘があったように、たとえ運営体制が変わったとしても来年に向けてしっかりと準備をして、引き継いでいかなければならない。その準備はこの実行委員会がする責任はあると思う。

【C 委員】

徳島市の阿波おどりであり、それは当然である。

【D 委員】

今年の阿波おどりに関しては、市長自ら責任をもって運営すると表明しており、各委員が集まって来ているので、市長にはリーダーシップを引き続き発揮していただきたいと希望する。

【委員長】

以上を持って第8回阿波おどり実行委員会を終了する。

